

北京外国語大学北京日本学研究中心との共同ゼミ概要

【文学と歴史の対話】

2007年1月5日（金）

北京に到着（北京日本学研究中心の文学専攻院生・盧俊偉さんがマイクロバスで出迎え）
北京外国語大学の北外賓館に宿泊

2007年1月6日（土）

9：00～12：00 開会式および講演

開会式：北京日本学研究中心の徐主任教授・白水主任教授、および古瀬が挨拶した。（司会は郭助教授）

講演1：古瀬 奈津子教授（お茶大） 「藤原道長と摂関政治」

講演2：張 竜妹教授（北京日本学研究中心） 「新しい教科書における対外意識」

講演3：伊藤 美重子助教授（お茶大） 「敦煌文書と日本のかかわり」

12：00～14：00 北京外国語大学の食堂において、先生方・院生の人たちと昼食を取りながら歓談。

14：00～16：30 共同ゼミ（司会は郭連友助教授と古瀬）

報告1：那 希芳（北京研究中心・文化専攻） 「西村茂樹の国民教育について」

報告2：野田 有紀子（お茶大非常勤講師） 「平安貴族社会の女房装束」

報告3：李 青青（北京研究中心・文化専攻） 「新渡戸稲造の植民思想～中国観を中心に」

報告4：矢越 葉子（お茶大博士後期課程） 「正倉院文書に見る造寺・写経事業と仏」

18：00～20：30 北京日本学研究中心主催歓迎晩餐会

北京外国語大学近くの湘鄂春という湖南・湖北料理のお店で開かれる。先生方・院生の人たちと歓談。

2007年1月7日（日）

終日市内視察・見学。故宮博物院や首都博物館などを訪問する。文化専攻の温穎さんが同行・案内してくれる。

2007年1月8日（月）

9：30～11：50 共同ゼミ（司会は張竜妹教授と古瀬）

報告5：孫 莎莎（北京研究中心・文学専攻） 「『枕草子』における虚構性」

報告6：重田 香澄（お茶大博士後期課程） 「摂関期公卿の日記の読まれ方・残り方」

報告7：李 小穎（北京研究中心・文学専攻） 「菅原道真の果たした政治的役割について
— 『菅家文草』の世界を中心に」

報告8：染井 千佳（お茶大・博士前期課程） 「古記録にみえる武士の活動」

11：50～12：00 閉会式（徐主任と古瀬が挨拶）

午後は、中華書局、および中国社会科学院歴史研究所を訪問。12月に来日し講演会を行っていただいた黄正建教授に歴史研究所および社会科学院の図書館などを案内していただいた。

2007年1月9日（火）

午後便で帰国（文化専攻院生の王昱景さんがマイクロバスで見送り）

北京日本学研究中心の院生はまだ日本へ来たことのない人たちも多かったが日本語が上手なだけではなく、その学問的レベルの高さには大変感銘を受けた。本共同ゼミは国際的な視野をやしなうことを目的としていたが、文学と歴史の学際的交流の意味でも大きな成果をあげることができたと思う。また、宿泊や空港までの送迎、歓迎晩餐会、市内視察・観光の案内など、北京日本学研究中心の先生方・院生の人たちには大変お世話になった。北京日本学研究中心の徐主任教授からは、今後も提携校として交流を継続していくことが期待されること、またお茶大の先生方には書類を書く手間を惜しまず外部資金などを取得してまた来ていただきたいという励ましのお言葉をいただいて帰国した。

(文責 古瀬奈津子)